

Dr. ジーアの My カルテ

全農家畜衛生研究所
クリニックセンター



寒さ対策と換気(養豚)

季節の変わり目は、環境の変化やストレス等が引き金となり呼吸器病が発生しやすい時期です。今回は、呼吸器病の1つで「ヘモ」とも呼ばれる豚胸膜肺炎 (APP) を中心に、呼吸器病対策の観点から冬場の管理面で注意すべき点を紹介します。

● 豚胸膜肺炎について

豚胸膜肺炎 (APP) は肥育豚に発咳や腹式呼吸などの呼吸器症状を引き起こしますが、明確な症状を示さないまま突然死する事もあり、耐過しても発育が遅れるといった影響が出ます。

対策としてワクチンの使用、抗菌性物質の投与が行われていますが、特に冬場は寒暖の差が激しく、寒冷ストレスを受けやすくなるので管理面での注意が必要となります。

● 豚舎内の温度管理

まずカーテンや壁が破れていないか、スノコ下から直接冷気の戻りがないか等確認します。また豚舎内に温度計を設置し、舎内温度の変化を毎日確認します。

朝方の管理では、腹ばいの体位で手足を縮め、1カ所にかたまるようなら、夜間の温度低下が疑われます (写真)。餌食いの様子や発熱など豚の健康状態に注意してください。

断熱材の老朽化にも注意が必要です。ネズミなどにかじられたりして剥がれている場合、十分な断熱効果が期待できません。定期的

な補修を行ってください。

● すき間風対策

すき間風は、壁やカーテンの間などさまざまな場所から入ってきます。豚が腹ばい体位で同じ方向を向いていたり、餌箱や壁に寄り添って寝ているようなら注意が必要です。豚房、豚室、豚舎単位で、すき間風を確認し、コンパネで仕切ったり、肥育舎の移動間もない場合はヒーター等による保温を行う等の対策を行います。ウインドウレス豚舎であれば、インレット (入気口) からの風が直接豚にあたっている場合があります。板を取りつけて風が直接あたらないようにするなど、調整しましょう。

● 換気も忘れずに

汚れた空気による呼吸器へのダメージも、APPの発生の引き金になります。冬場で豚舎を閉め切りすぎ



重なるように1カ所にかたまっている豚 (写真は2カ月齢の子豚)

ると、アンモニア濃度が上昇し、埃が蓄積され豚にダメージを与えます。豚群で、活力が弱い、毛艶が悪い、くしゃみや咳が増え、目やにや充血が見られる個体が増えないよう、日中の暖かい時間に豚に、直接風があたらないように空気を入れ替えます。

寒さの厳しい地域、比較的暖かい地域によって対策が異なる事はもちろん、豚舎それぞれの構造によっても対策は異なります。これからも寒い時期が続きますので、今一度寒さ対策、すき間風対策、換気を見直してみましょう。